

第79回県展 審査員略歴

<>内は高知県展審査員歴

敬称略

【洋画部】 諏訪 敦 (すわ・あつし)

<初審査>

1967年北海道生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。1994年に文化庁芸術家派遣在外研修員としてスペインに滞在。1995年第5回バルセロ財団主催国際絵画コンクールにて大賞受賞。主な展覧会に「諏訪敦絵画作品展 どうせなにもみえない」「諏訪敦 眼窩裏の火事」など。主な画集に「Blue」「眼窩裏の火事」などがある。2018年より武蔵野美術大学造形学部油絵学科教授、画家

【日本画部】 浅野 均 (あさの・ひとし)

<64回展>

1955年大阪府生まれ。京都市立芸術大学美術専攻科(現大学院)修了。山種美術館賞展大賞、第1回東山魁夷記念日経日本画大賞、北京国際美術ビエンナーレ優秀賞など受賞。京都市文化功労者表彰。東洋の古典絵画の論考と、主に今日的山水画表現を追求し作品を制作。創画会会員、京都市立芸術大学名誉教授

【彫刻部】 永津 守 (ながつ・まもる)

<初審査>

1953年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学大学院(彫刻専攻)修了。新制作展新作家賞を複数回受賞。第35回現代美術選抜展(文化庁)、ドイツ国際木彫シンポジウム、ボリビアおよびエジプト国際彫刻シンポジウム招待。新制作協会委員長を務め、現在、新制作協会会員

【工芸部】 岩井 美恵子 (いわい・みえこ)

<初審査>

成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻博士課程前期修了。岐阜県現代陶芸美術館、パナソニック汐留美術館、東京国立近代美術館工芸課主任研究員として勤務。2022年より国立工芸館工芸課長。文化庁「文化審議会専門委員(文化財分科会)」、(公財)三谷文化芸術保護情報発信事業財団選考・諮問委員、国際交流基金「令和7年度石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェローシップ」審査、日本伝統工芸展陶芸部門第一次鑑査委員(第70・71回)なども務める

【書道部・漢字】 伊藤 仙游（いとう・せんゆう） <初審査>

1955年岐阜県生まれ。立命館大学卒業。岐阜県芸術文化顕彰。日展会員、読売書法会常任理事、日本書芸院常務理事、墨滴会理事長、墨游会会長

【書道部・かな】 吉沢 劉石（よしざわ・りゅうせき） <初審査>

1952年茨城県生まれ。大東文化大学文学部中国文学科卒業。読売新聞社賞、日展特選、読売書法展準大賞など受賞。日展会員、読売書法会常任理事、日本書芸院常務理事、千草会理事長

【写真部】小松 健一（こまつ・けんいち） <63・64・70回展>

1953年岡山県生まれ。新聞記者などを経てフリーの写真家に。世界の厳しい風土の中で自然と共生する民族をライフワークに地球巡礼をしている。また、日本の近現代文学、作家の原風景を切り口にした日本人の暮らしと風土、沖縄、環境、基地問題など追いつける。日本写真協会賞年度賞、飯田市藤本四八写真文化賞、日本ジャーナリスト会議JCJ賞など受賞。（公社）日本写真家協会会員、（協）日本写真家ユニオン相談役、全日本写真連盟関東本部委員。著書、個展多数

【先端美術部】小田原 のどか（おだわら・のどか） <初審査>

1985年宮城県生まれ。東京芸術大学大学院、筑波大学大学院修了。芸術学博士。宮城県芸術選奨新人賞など受賞。主な個展につなぎ美術館、国際芸術センター青森など。彫刻史をジェンダーや帝国主義の視点から考察し、理論と実践の両輪で活動を行う。著書に「近代を彫刻／超克する」「モニュメント原論：思想的課題としての彫刻」、編著に「この国（近代日本）の芸術：〈日本美術史〉を脱帝国主義化する」など。横浜国立大学専任講師

【グラフィックデザイン部】 無鑑査5名

森本忠彦、松井大洲、竹内研介、手島健司、出水華代